

うまく花文字が読めるかな？



つくば市では市民参加によるまちづくりの一環として、花いっぱい運動を行っています。白井地区に住む鮭川和行さんは、つくば道を花いっぱいにして道行く人に楽しんでほしいと、この活動に参加しています。去年は神郡地区をペンジーの花で飾って、多くの人に喜ばれました。今年は筑波山への登り口である白井地区を花でいっぱいにする事になりました。準備したのは、日々草とベゴニアの花苗が1700株。

6月2日朝9時、初夏の陽ざしが照りつける中を白井地区の人たち10人ほどが集まって、鮭川さんの指導でプランターに色とりどりの苗を植え込んでいきます。今回は花で絵文字を作ることにも初めて挑戦しました。つくば道に沿った畑の中に、白のベゴニアで「ウェルカムつくば」という文字を作って、まわりには赤のベゴニアを文字が目立つように考えながら植えました。2時間近くかけてやっ

と完成しました。8月頃になると、赤いベゴニアのじゅうたんから、「ウェルカムつくば」の白い文字が浮き上がって美しい景色をつくり出す。ぜひ立ち止まって、ゆっくりとご覧ください。上野節子(小沢地区)

「曼珠沙華」公演に酔う

去る6月6日、六所の「美六山荘」において、新館落成を記念し、国内公演の他、イタリア、ブラジル等海外公演もおこなっている「曼珠沙華(国際文化交流劇団)」の公演と、海外演奏から帰国したピアノスト、後藤泉さんの演奏が行われた。200人を超える観客は、舞いの美しさに酔って時を忘れた。また、緑の自然の空間にピアノの音色が響き、心が洗われるようだった。観客席やバーベキューの準備に早朝から集落の70名ほどが携わるなど、集落挙げてのイベントは、筑波山頂付近に二重の虹が出て天空からも祝福された。森田源美(六所地区)



幻想的な舞いに酔いしました

今年も開催、筑波山麓秋祭り

筑波山麓秋祭り、本年は10月30日(土)から11月7日(日)の9日間(土)から11月7日(日)の9日間

田井地区は、白井、立野、六所、神郡、館などが区ごとにイベントを実施。山麓ウォーキングやそば打ち体験、普門寺での瓦灯りのプロムナードなどこれまでの行事に加え、新たな企画が加わるとのこと、お楽しみに。また、自然生クラブでは「田井ミュージアム芸術祭」を開催。里山建築研究所の名物の甘酒「麓べえ」など独自イベントも行われます。わが「すそみろく」チームは昨年引き続き茶屋を出店。好評のふくれみかんクッキーやすそみ風鶏汁、焼き芋などを提供する予定です。そして、おじさんロックバンド「山麓オーケストラ」の演奏もますますパワーアップして登場！実りの秋が待ち遠しいですね。



すそみろくチームの茶屋



山麓オーケストラの演奏

古墳群や機織り中かりの神社まですそみの「漆所」ってどんなところ？

筑波山の麓、すそみの二画に「漆所」という集落があります。この「うるしじょ」という集落名は、珍しいので、地名のいわれなど気になる場所です。漆所古墳群や機織りと縁の深い神社など、歴史探索の楽しい地域でもあります。この度、漆所集落の方々が山ひとつ越えた北条への山道整備を始めたのを機に、漆所とはどんなところなのか、探ってみました。



漆所は、戸数56戸。つくば道の出发点、北条の町とは城山を隔てた反対側に位置します。この一帯は谷津が入り組み、谷津を取り囲むようになっています。この丘に立って北側を望むと筑波山の二つの峰の美しい姿が望めます。ここに古墳を築いた古代の人々も、この筑波山の眺めにあこがれたのではとふと思えます(P3地図参照)。

以下、漆所を、すそみの面々が地域の活動も踏まえレポートいたします。

●漆所おっこし

5月30日、漆所から北条まで抜ける古道の整備作業が行われました。地区の方々15名ほどが集まり、杉田進一区長の指揮のもと、缶拾い班と



女性陣は鎌を持って参加です



刈り払い機のおかげで仕事もはかどります

池から北条の寺院、無量院まで抜ける古道が姿を現しました。ここは御越と呼ばれ、30年くらい前までは生活にかかせない道でした。実際に歩いてみると、10分程度で北条の無量院に着きました。

「男でも、夜中にここを通るのは怖かったなあ」「熱を出した子どもをおぶって妻がここを通って、北条の医者まで行ったつけ」「ハツタケがたくさん生えていて、よく採ったもんだ」と、たくさんさんの思い出を語ってくれたのは杉田守さん。「沢の水があふれて寸断された道

編集を終えて.....古墳時代にさかのぼる歴史があるなんて、すごいですね！筑波山の眺めも美しい漆所地区です。復活した「漆所おっこし」ぜひ訪ねてくださいね。昨年復活した白滝道や、現在整備が進みつつある蚕影山の山道など、「すそみ」には魅力的な山道がたくさんあります。かつては生活の様々な面で使われていた山道の復活は、忙しい現代の清涼剤のように感じます。折々の活動を「すそみろく」で紹介しますので、ぜひ、応援してください。

すそみサポーター 敬称略

つくば市大貫	松崎とし
土浦市真鍋	もとはし京染店
那珂市	笹沼 誠
つくば市小沢	杉田慶也
つくば市小田	大曾根隆
つくば市上大島	吉原憲夫

他3名の方から協賛をいただいています

※協賛会員「すそみサポーター」募集中！ 103000円

デザイン：小沢陽子(漆所地区)



私たちが応援しています！

●漆所の歴史

古墳時代6世紀まで遡る事の出来る満面塚古墳や大塚古墳など数基が点在する漆所について郷土史研究家井坂敦實氏にうかがいました。

「漆所」という地名は『日本歴史地名大系茨城県の地名』(平凡社)に「古墳に漆を一千石埋めた所から地名が起ったとの伝承」とある。又漆の採れた所など様々な説はあるが、いずれも確証はない。「漆所」が文書に明確に出て来るのは、文禄5年(1576)佐竹藩御蔵江納帳に村石221石とある。元禄11年(1648)「漆所村差出帳」には264石・家数23戸・人数121人・田9町3反余。明治2年(1869)「漆所明細書



井坂先生(右)から古文書の説明を聞く

上帳」によると家数18戸・人数120人。平成22年(2010)人口138人・耕作可能田畑11ha。地域の構成は江戸時代から大きな違いはない。

満面塚古墳の東側は、機織部につながる機織の神様を祭る初西神社がある。古より地元の神様として信仰の中心であり、今も11月の初西の日直前の土曜日に例祭が執り行われている。当日はそば・赤飯・甘酒などが供えられ、参拝者には甘酒がふるまわれる。半世紀前までは百日咳の治癒を神様に祈願し、願主は奉納された旗の布裂を首に巻いて百日咳を追い払ったそう。現在、神社の北側は竹が繁茂しているが筑波山の遥拝の場であったことも容易に認識できる。

なだらかな斜面、小高い丘に囲まれた漆所。訪れると安らかな気持ちになる。長い時の流れが静かにうち過ぎた場所だからでしょうか。

石井博子(神郡地区)

聞き書き「漆所の祭り」

漆所の初西神社など古からの風習について漆所の長老、荒木勝弥さんと三田部三郎さんにお話をうかがいました。ここにはその一部をまとめて掲載いたします。()内は編集部による補足。

きで奉納、下の真ん中に縦書きで初西神社、左側に氏名、右側に年号を書いて納めるんだ。
三田部 子どもが百日咳にかかる、前に奉納した人の旗をつーつと裂いて、それを首に巻くんだ。子どもの頃巻いた覚えがあるよ。でも真っ黒に汚れてたな。それをそのまま洗う



うるしじよ 漆所マップ



長老お二人に貴重なお話をうかがいました

◎風神祭り

漆所の祭りについて教えてください。
三田部 「風神祭り」があったな。荒木 立春から210日目の二百十日に暴風雨がこないように、9月1日の1週間くらい前、8月25日頃やるんだ。オコウヤ(お講屋、現・集会所)から、さんぎり太鼓を鳴らしながら初西神社に行く。これは青年団がやった。寄付を集めて、子どもに梨なんか買ってやって配る。昔はチョコレートなんてないから。お祭りはいつ頃まで?
三田部 昭和35年くらいまでやってたかな。
荒木 戦争から帰ってきた若い衆と戦後もしばらくやってたな。ただ養蚕もダメになったし百姓だけではやっていけない。「出稼ぎ(勤め)」に

こともしねえですつといるんだ。ひよつとすると免疫がついて強くなったのかもな(笑)。これも今は誰もやらなくなったな。— 貴重なお話ありがとうございます。井上忍(つくば市上横場) 松本真朋・安藤慧(里山建築研究所)

出るようになって自然消滅した。

◎雨乞い祭り

風神祭り以外にはどんな祭りが? 三田部 雨乞いのお祭りがあったな。荒木 漆所はため池が3つ(古文書には4つ)あったが、筑波山から遠く、水がじゅうぶんでなかった。雨が降らないと神郡末水に頼るしかない。つまり神郡からのもらい水だ。漆所は水の順番が最後だから、もらえないこともあるんだ。だから、雨乞いの祭りをした。

— 雨乞いはよくしたんですか?

荒木 よほど困ったときで、1回だけだな、子どもの頃に経験がある。— 具体的には?

三田部 太鼓の音が天に届くまで、たたくんだよな。降るまでやる。荒木 音をきらしちゃいけない、というので、順番に雨が降るまでたたく。飲んでないとやってられないから、酒飲みながら。まあ気休めだ(笑)。ため池以外に、井戸を掘ることがあった。井戸は木の枠を付けて掘ったが、一日もすると干上がってしまう。昭和30年代には風車が流行って、この辺りでも風車で汲み上げた。材料はハンノキで作った。

◎初西神社の祭礼と旗奉納

— 初西神社については?

●田井小と漆所古墳群

田井小の校長室前の展示コーナーには本物の埴輪がある。これは満面塚古墳を壊した時に、地域の学校という事で寄付されたものであるらしい。漆所には満面塚古墳のほかには大塚古墳、隣接の杉の木には土塔山古墳がある。田井小では平成17年度に、中村泰先生の指導のもとに、詳細な取材を行い、現在も研究成果がホームページに残されている。これは総合学習の一環として、「田井タウンマップをつくろう」というホームページコンテンツに応募するためで、結果として「産経新聞社賞」を受賞しています。子供たちは、身近にたくさん古墳があることを知ってびっくりし、田井小にあるものが、本物であることに、さらにびっくりしました。

なお、この取材では漆所の荒木さんにお話をうかがったそうです。

榎田智司(六所地区)



埴輪イラスト: 肥田栄輔(田井小学校5年)

インフォメーション

- 夏祭り 神郡祇園祭り 7月18日(日) / 山車、神輿がにぎやかに町内を練り歩きます。白井八坂神社の御神火 7月17日(土)はおかがり(20時点火)、7月18日(日)子どもみこし(9時)、大人みこし(15時) 杉ノ木稲荷万灯 8月22日(日)17時頃から子どもたちが描いた約30基の万灯で神社までの参道を飾ります。
- 平沢万灯 8月21日(土)18時~21時 / 雨天時22日(日)遺跡の復元建物をライトアップ、八幡神社までの道を万灯で飾り幻想的な光の世界を演出します。かき氷のプレゼントあり [問] 平沢官衙遺跡案内所 029-866715841
- 田楽の集い 稲刈り 9月26日(日)10時~15時 / 雨天中止 / 参加費大人1000円、学生・障害者・小人500円(昼食付) / 筑波山の麓の谷津田で無農薬の米づくり。黒米や赤米を手刈り、あぜで創作「田楽舞い」もあります。 [問] NPO法人自然生ケラブ 029-866612197
- 「すそみの田んぼ」 棚田の稲刈り 9月20日(月)祝10~15時 / 参加費900円(昼食付) / 生き物のために、沢水だけで無農薬の米づくりをしています。 / 支援金募集中(収穫量に応じお米の配分あり。詳しくはお問合せを) [問] NPO法人つくば環境フォーラム 029-866315151
- 「わた部発足」 神郡、館、学園の有志が集まり、館の畑をお借りして、綿の栽培を始めました。秋祭りに向けて綿摘み&小物づくりワークショップを企画中です。 [問] 里山建築研究所 029-866711086



桜の木に囲まれた初西神社



荒木 初西神社は、昔は1日と15日は必ず神社にお参りした。だから、参道なんか草刈りしないでもきれいだった。
三田部 出征する時もみんな参ったな。初西神社は神主がいらないから集落で守った。
お祭りの時にはマジ(祭り)だからと言うので、親戚を呼んで、甘酒と赤飯とそばを用意する。甘酒は竹の節から節までを切ったものに入れ、赤飯は半紙にくるんでお供えする。A家だけは白飯を炊くんだ。これもなんかいわれがあるんだろうな。今は11月の初の酉の前日に(今は初西の日の前の土日)鳥居のところに幟を揚げる。
— 機織りと関係したいわれは?
三田部 初西神社は機織りの神様だから、旗を奉納する。
荒木 縦45cm、横30cmくらいの白布(木綿のさらし)に筆で、上に横書